

台湾との技術交流の報告(2024)

元主席研究員 宮川 幸雄

1. はじめに

リバーフロント研究所(RFC)では、台湾との技術交流を目的として、台湾にて開催される河川分野に関する国際学会に毎年参加しています。2024年度は、9月10日から12日にかけて開催された台湾国際水週間2024(TIWW)に発表者として参加しました。その後、台湾北部の淡水河の河口部等を台湾水利署のご案内で見学しました。本稿では、これらの技術交流についてご報告します。

2. 台湾国際水週間2024(TIWW)

TIWWは、台湾および海外の水関係の産学官の発表の場として毎年開催されるイベントです。RFCは、9月10日および11日の午前のアジェンダに参加しました。10日は、池内理事長((一財)河川情報センター)から、「日本の河川分野における防災および持続可能な管理への取組」に関する発表をいただきました。11日は、RFCから、日本の河川環境に関する2題の研究発表をいたしました。一つは、都築自然環境グループ長から、兵庫県の一級河川である円山川で実施している多自然川づくり(湿地再生)について、円山川水系内の高水敷掘削や中郷遊水地の整備、順応的管理を紹介しました。もう一つは、宮川主席研究員から、日本の河川水辺の国勢調査の概要とその調査データを活用した日本の河川生物の長期変動に関する分析について紹介しました。同じ日に、台湾側からも、国立台湾大学から、複数の流域における自然撓乱と人為的活動が河川生態と水質に及ぼす影響の評価について、台湾水利署から、自然再生、水辺景観、砂州の保全に関して、それぞれ発表がされました。最後に、スピーカーを登壇者としたパネルディスカッションも実施され、闊達な質疑応答がありました(写真1)。



写真1 台湾国際水週間でのパネルディスカッションの様子

TIWWでは、研究発表のほか、主に台湾国内の企業の技術を紹介するブース展示も行われており、台湾のダム等で使用されているポンプ等が展示されておりました。

3. 現地見学

TIWWのほか、台湾水利署に案内いただき、台北市内の台北ウォーターパークを見学するとともに、台湾北部を流れる淡水河の河口部および中流部を視察しました。

台北ウォーターパーク内には、総督府時代の台北の上水道施設がほぼ当時のままで展示されており、内部を見学することができました(写真2)。台北市の水道敷設の歴史もわかりやすく紹介されておりました。パーク内にはプールも併設され、まだ暑い時期だったため、家族連れで賑わっていました。

9月12日に視察した淡水河の河口部では、水利署の出張所の案内で、干潟の生物を紹介いただくとともに、架橋工事に伴う周辺の生物調査の方法も説明いただき、その底質および生物に関する調査項目の多さに驚きました。また、中流部では河道拡幅と拡幅に伴う隣接する湿地の再整備事業についての説明がありました。現地にて、堤防道路に面し、限られた川幅で湿地の環境を保全する難しい工程を実現するための苦勞を伺うことができました。



写真2 台湾ウォーターパーク内の展示の様子

4. おわりに

2024年の夏は日本でも猛暑日が続きましたが、台湾も日本より赤道寄りであり、同じように暑さが厳しい日が続きました。にもかかわらず、現地を案内いただいた台湾の方には饒舌に現地解説いただき、暑さにも負けない熱意を実感しました。2023年度も台湾技術交流で台湾を訪問しましたが、訪問のたび、現地から元気をいただいております。